

用語の説明

第1章

沖積層：現在の水系による作用で堆積した泥・砂・泥炭など。

そんしつこうりょう
損失降雨量：雨量のうち、表面流出を構成する成分を有効降雨量という。その他の分を損失雨量という。

縄文海進：完新世初頭（約1万年前）にはじまり、中期（7,000～5,500年前）に最盛期を迎えた海進。海進とは、海岸線が陸側に前進すること、あるいは陸地が海の進入を受けること。

高海面期：海面が現海面より上昇した時期。第四紀にあっては温暖な間氷期に氷河が縮小・消失して海水量が増加し海面が上昇したとされる。

最終氷期：第四紀更新世の最後の氷期。約7万～1万年前まで。

後背湿地：氾濫原上で自然堤防の背後にできる沼沢性の低湿地。氾濫原とは、山地や台地などさまざまな高度の河谷中に、洪水の浸水によって生じた緩やかな勾配の土地。

自然堤防：氾濫原中を普段の水位で流れている水路（常水路）の両側に、洪水時の堆積作用によりできた微高地。

扇状地：河川が形成した、谷口を扇頂とする半円錐状の堆積地形。

三角州：河川が運搬・搬出する堆積物が、湖や海などの静水域に堆積してつくられる低平な堆積地形。

せんにゅうだこう
穿入蛇行：蛇行状に屈曲する谷の中を流れる河川を指す。

V字峡（V字谷）：横断面がV字形の河谷。側刻よりも下刻が著しい河川がつくった谷底の狭い谷。

河跡湖：河川の流路の一部が流路から切り離されて湖になったもの。蛇行河川の切断によって生ずる三日月湖はその代表的な例である。